

English  
in your  
Pocket

楽しく  
英会話!

vol.2

Week 24

# Numbers

## 数字を使った慣用表現

今回は数字を使った慣用表現を取り上げます。

まずは、日本語と英語で似通った表現です。

*Kill two birds with  
one stone.*

一石二鳥



この表現では、「鳥」も「数字」も共通しますね。

*If you run after two hares, you will catch neither.*

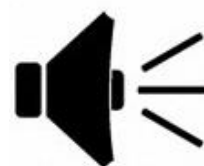
二兎を追うものは一兎をも得ず



この表現でも、「ウサギ」「数字」は共通です。run after は「～を追いかける」の意味。hare は「野ウサギ」の事で、rabbit より大型で長い耳、長い脚をもっている種です。neither は、両方を否定し、「どちらも～でない」の意味です。

*Three women make a market.*

女三人寄ればかしまし姦し



ここでも「女」「数字」は共通です。market は「市場」のことで「騒々しい」意味につながります。

女性が3人集まると賑やかになるという認識は文化に共通しているのですね。

異なった風土でも同じような数字を使った表現になるのは興味深いですね。

さて、次は、ちょっと異なる表現です。

*A bird in the hand is  
worth two in the bush.*

明日の百より今日の五十



ここでは、英語で「鳥」を引き合いに出しています。bushは「繁み」つまり、「手中の1羽の鳥は、繁みの中にいる2羽の鳥よりも価値がある」となります。

*A rumor lasts but  
nine days.*

人のうわさも七十五日



英語では、人の rumor 「うわさ」は、9 日間 last 「続く」と言っています。but は「たったの=only, just」の意味です。日本語ではかなり長い 75 日間となります。

*Two heads are better  
than one.*

三人寄れば文殊の知恵



英語では、「2人の知識は1人の知識より良い」ととてもシンプルに表現しています。日本語では、三人寄って知恵を出せば、知恵を司る仏である「文殊菩薩」に近づきますよと表現しています。とても日本らしい表現だと思います。

⇒ポケットイングリッシュ、次回は年明け1月6日(月)。皆様どうぞよいお年を！